

カスリーン台風 襲来75周年

今年^{みぞう}は関東地方に未曾有の大雨をもたらす、利根川を一変させた戦後最大のカスリーン台風による襲撃から75年を迎えました。もし、あなたの街にカスリーン台風が今やってきたら…。そんなことを考えながら、カスリーン台風について振り返ってみましょう。



カスリーン台風とは？

昭和22年9月8日、南方洋上に発生したカスリーン台風は、9月15日に房総半島南端を通過し関東・東北地方に多くの被害をもたらしました。カスリーン台風発生時、日本列島には秋雨前線が停滞していたため全国的に雨のところが多く、関東地方でもカスリーン台風が去るまでの間、記録的な豪雨となりました。これにより、利根川や渡良瀬川であらゆる堤防が決壊し、川辺村(現加須市)では最高水位5.5mに達し、湛水期間は1ヶ月にも及びました。もし、今、同じ場所にカスリーン台風と同じ規模の台風がきて、同じ場所の堤防が決壊した場合、当時より人口も守るべき財産が相当増えており、想像もできない大混乱になります。こうした事態に見舞われた時に対応できるハード面・ソフト面の強化が大事になってきます。



破堤箇所の航空写真



カスリーン台風による浸水(葛飾区付近)



カスリーン台風による浸水(JR宇都宮線)

(画像提供 利根川上流河川事務所)

カスリーン台風75年 ログマーク!



背景のマークは台風をイメージしており、赤色は市街地(家屋)、黄緑色は田畑(耕地)、緑色は山間部(山地)を表し、青色の大雨によって溢れ出した利根川の水がそれらを飲み込んだ様子を表現しています。

洪水から守るために

洪水被害に直撃した際、自分の命を守るために一人一人が情報を手に入れていくことが大事です。河川情報や氾濫情報、ハザードマップ等を確認しましょう。自分は大丈夫では遅いのです。機構としても、こうした過去の教訓を踏まえて、一人一人の防災意識の向上や防災対策の必要性を伝えることを目的とした流域一体となった広報展開を図りたいと考えています。

